

書 評

「火山の大研究」

子供たちの理科離れが叫ばれてから、かなりの時間がたつ。火山という理科の分野は、本来、楽しい学習のはずであると火山の研究者たちは考えているが、実際の教科書は難しく、とてもこれを学んで火山に興味を持てるようになるとは思われない。火山のアウトリーチこそが私の任務であるとする著者、鎌田浩毅氏が編集されたのが、「火山の大研究」である。

火山列島、日本に住んでいる私たちだからこそ、わかっておきたい火山の知識が詰まった一冊。火山の正体から噴火と災害についてまで、火山の世界を幅広く学べる一冊。

<パート1>「火山の正体としくみ」…火山はこうしてできる！／火山のなかにはマグマが詰まっている！／えっ！海の底にも火山があるの！？／あぶない火砕流と火山ガス など

<パート2>「火山からのおくりもの」…おいしい水／美しい湖／たのしいレジャースポット／貴重な石材や金 など

<パート3>「ふん火と災害」…ふん火は予測できる／防災のあれこれ／有珠山のふん火をよく見てみよう／富士山はふん火するの？ など

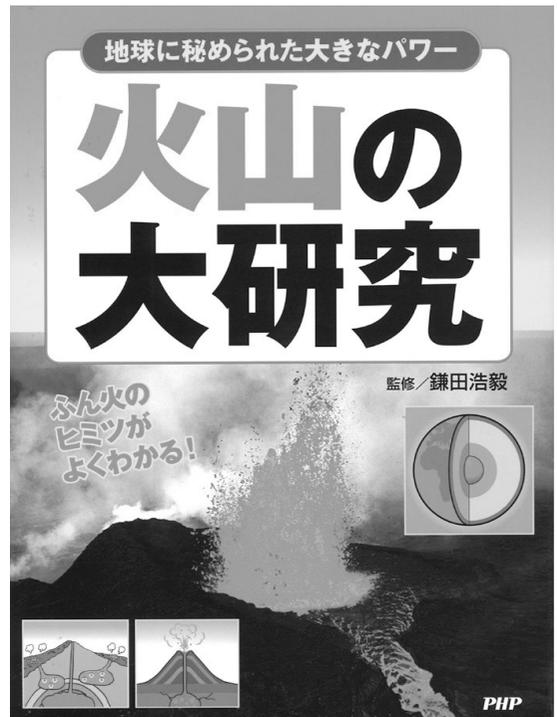
「さあ！ やってみよう」(実験)…サイダーでふん火の実験／砂場で地かく変動を見てみよう／水でっぽうで溶岩ふん泉を見てみよう

「教えて！ 火山学者の仕事」では、鎌田浩毅先生の仕事の様子を、楽しくわかりやすく解説しています！

まず、火山のしくみをわかりやすく解説するところからスタート。

次に火山は私たちに多くのめぐみを与えてくれるお話を。その上で、火山による災害の話に進める。

この順番が大切である。火山が噴火することは災害が伴うものであるが、子供たちに最初にその話から



入ってしまうと、恐怖心が先にたち、火山に親しもうという意識が持てない。仕組みを学び、火山のすばらしさに触れた上で、災害の話をするから、子供たちは火山を冷静に理解していくのである。

絵や写真をふんだんに使い、実験などを紹介しながら、火山という日本では必ず発生する現象をきちんと理解することが、とても重要である。この本は小学生の子供たちが火山について学ぶ、いや親しむ最初の本として、とてもすばらしい。版を大きくしたため、値段の高いことが玉にきずである。全国の図書館や学校では必ず購入していただきたい。私の勤務する磐梯山噴火記念館でも販売をしている。

佐藤 公(磐梯山噴火記念館)